

平成21年10月13日



news release

ポケットカード株式会社(8519) 平成22年2月期 第2四半期連結決算(概況)
営業収益190億70百万円、経常損失7億90百万円、四半期純損失4億78百万円

ポケットカード株式会社(8519)の平成22年2月期第2四半期連結決算は、割賦購入あっせん部門、並びにプロセシング部門が順調に推移したものの、消費者金融マーケット縮小に伴うキャッシング取扱高の減少及び上限金利の引き下げにより融資部門が減収となり、営業収益全体では190億70百万円(前年同期比2.6%減)となりました。

一方費用面においては、業務全般においてコスト削減に努めたものの、利息返還請求並びにその先行指標となる介入債権が高水準で推移したことによる利息返還・貸倒関連費用の増加、並びにプロセシング部門の急拡大に伴う先行費用の増加等により営業費用が増加し、営業損失は7億88百万円、経常損失は7億90百万円、四半期純損失は4億78百万円となりました。

割賦購入あっせん部門につきましては、ショッピングリボ拡大への各種取り組みが順調に推移した結果、営業収益は前年同期に比べ6億23百万円増加の、42億7百万円(前年同期比17.4%増)となりました。

プロセシング部門につきましては、カード発行枚数の増加に伴うプロセシング受託件数の増加、並びに保証債務残高の拡大により、営業収益は前年同期に比べ4億60百万円増加の16億70百万円(前年同期比38.1%増)となりました。

融資部門につきましては、消費者金融マーケットの縮小に伴うキャッシング取扱高の減少に加え、貸金業法の完全施行に向けた上限金利の引き下げを進めた結果、営業収益は前年同期に比べ15億64百万円減少の、126億11百万円(前年同期比11%減)となりました。

以上の結果、営業収益全体では190億70百万円(前年同期比2.6%減)となりました。

費用面につきましては、業務効率化を進め各種コスト削減に努めたものの、利息返還請求並びにその先行指標となる介入債権が高水準で推移したことによる関連費用の増加、プロセシング部門の急拡大に伴いカード発行に係る費用等の先行費用が増加したこと等により、営業費用全体では前年同期に比べ16億26百万円増加し、198億58百万円(前年同期比8.9%増)となりました。

以上の結果、営業損失は7億88百万円、経常損失は7億90百万円、四半期純損失は4億78百万円となりました。

【単位：百万円】

	営業収益	経常利益	四半期純利益
平成22年2月期 第2四半期連結業績	19,070	△790	△478
平成21年2月期 第2四半期連結業績	19,571	1,342	1,058
前年同期比	△2.6%	—	—

以 上